

運転士がいないのぞみ号なんて！ 「のぞみ2号運転士操配」は誰の責任か！？

9月5日、のぞみ2号は新大阪駅で旅客の乗降が済んで扉が閉まったにもかかわらず発車しませんでした。その理由は担当する運転士がいなかったからです。

前日は大雨の影響で列車ダイヤが大幅に乱れ、運転士、車掌の乗務員は体力と精神力で無事故で安全運行を続けました。担当された乗務員の皆さん、大変お疲れ様でした。

その翌日の出来事ですが、のぞみ号の運転士がいなかったのは、けっして運転士がサボっていたり体調を悪くしたわけではありません。当日、担当する運転士の操配を会社が怠っていたことが原因ではないかと職場ではほとんどの乗務員がその確信をしています。

**全ての社員は知っています！
しかし、会社は何も明らかにせず！**

普段から、管理者は社員に対して「憶測はだめ」「確認すること」を毎日の点呼の中で言っています。そして乗務中、何かあったら「報告する」ことを至上命題のように指導しています。

ところが！今回の事実はあくまでも社員が起こしたミスではなく会社の責任において発生した事実であることは間違いありません。仮に社員が起こした事実なら乗務を外され、日勤教育が強要されるはずですがそうした事実も発生していません。

私たち社員は、普段から安全を守るために業務をこなしています。誰でもミスをしようと思っている社員はいませんが、万が一起こした事実は原因をはっきりさせることが最優先であることには間違いありません。

会社も社員もそうした信頼関係が前提としてあるはずであります。一方のミスは責められて片方のミスは問題にならないのは、極めて信頼関係が築けていけない原因になります。私たちは、申し入れをして事実の確認を求めます。

会社は、早急に事実を明らかにし、再発防止に努めるべきです。